

被ばくによる影響だけは否定する検討委員会

県内の小児甲状腺がんまたは疑いが、前回の発表(2015. 2)から9人増えて127人となり、そのうち104人が手術を受け103人ががんと確定した。今回も星北斗座長は、「現時点では甲状腺がんが被ばくによるものとは考えられない」と繰り返した。

しかし同時に、同委員会が設置した甲状腺評価部会は「通常の数十倍の程度の多発」「被ばくが原因ではないと言い切れない」などの中間とりまとめを公表した。その中では、「甲状腺検査については、事故による被ばくにより、将来、甲状腺がんが発生する可能性が否定できないこと、不安の解消などから検査を受けたいという多数県民の意向もあること、さらには事故の影響による甲状腺がんの増加の有無を疫学的に検証し県民ならびに国内外に示す必要がある」とも述べている。

また当初からの甲状腺検査責任者である県立医大の鈴木真一教授が、「甲状腺がん治療に専念するため」という理由で退任したことが公表された。後任は、長崎大学から派遣された大津留晶氏(内科医)。甲状腺の専門家ではなく、今回の検討委員会でも詳細な手術症例について回答することができず、今後の情報提供が十分に行われぬ懸念がある。

ふくしま共同診療所からみなさんへ

当診療所は、放射線被ばくによる健康被害を心配した地元の人たちが、全国からの協力をえて作りました。子どもを心配する多くの親御さんが甲状腺エコー検査を受けにきます。

現実に小児甲状腺がんが苦しむ子どもたちが増えているにもかかわらず、政府も県も明確な理由も示さずに放射線被ばくの影響だけを否定しています。原因追及の議論よりも、甲状腺がんだけでなく、さまざまな疾病の多発に対応できる医療体制を早急に整える必要があります。このような状況下で、全町避難である楡葉町の帰町宣言をし、16年度末までにすべての避難指示を解除して住民を帰すことなど、医療従事者として許すことはできません。

当診療所は、被ばくによる影響を前提に、みなさんの不安に寄り添う診療をしております。チェルノブイリでは、事故後29年たった今でも甲状腺がんを始めとした健康障害が続いています。どんなことでもご相談に応じますのでお気軽にお立ち寄りください。

\* 県民健康調査検討委員会は公開で行われており、みなさんも傍聴ができます。開催日時等は、県庁にお問い合わせください。

<県民健康調査二次検査結果> (2015 5/18発表)

| 甲状腺がんまたは疑いの子ども 127人 |                                     | 先行検査結果   | 本格検査結果 |
|---------------------|-------------------------------------|--|--------|
| 甲状腺がんまたは疑い          | 112人                                | 15人<br><small>※先行検査結果の内訳 (A1: 8人 A2: 6人 B: 1人)</small> |        |
| 手術を受けた子ども           | 99人<br><small>※がん確定98人、良性1人</small> | 5人   |        |
| 年齢(震災当時)            | 6歳~18歳                              | 6歳~17歳   |        |
| 性別                  | 男性38人:女性74人                         | 男性6人:女性9人  |        |
| 腫瘍径                 | 5.1mm~45.0mm                        | 5.3mm~17.3mm   |        |
| 対象人数                | 36万7000人                            | 38万5000人   |        |
| 対象者                 | 原発事故当時18歳以下                         | 原発事故当時18歳以下+事故後1年間に産まれた子ども                             |        |
| 実施人数                | 299,233人                            | 148,027人 (2015年3/31現在)                                 |        |
| 実施年度                | 2011年10月~2014年3月                    | 2014年4月~2016年3月  |        |

<がんまたは疑い 市町村別内訳>

※手術後、良性1人は含めない

【国が指定した避難区域等の13市町村】

先行検査2011年度実施

- 5人: 伊達市 (1名増)
- 3人: 南相馬市 (1名増) 浪江町
- 2人: 川俣町 大熊町
- 1人: 川内村、富岡町
- 0人: 飯舘村 広野町 楡葉町 双葉町 葛尾村

【中通り】

先行検査2012年度実施

- 25人: 郡山市
- 18人: 福島市 (4名増)
- 6人: 白河市 二本松市 (1名増)
- 5人: 田村市  
前回2015年2/12発表から9名増加
- 4人: 須賀川市  
・赤→本格検査で7名増加  
・青→先行検査で2名増加
- 3人: 本宮市
- 2人: 大玉村
- 1人: 西郷村、泉崎村、三春町、石川町、平田村、棚倉町

【浜通り】

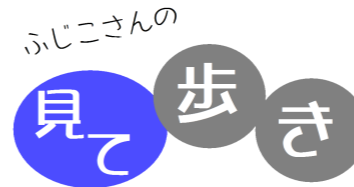
先行検査2013年度実施

- 23人: いわき市 (1名増)

【会津地方】

先行検査2013年度実施

- 7人: 会津若松市 (1名増)
- 1人: 会津坂下町、猪苗代町、下郷町、湯川村



仮設住宅への戸別訪問

看護職員 佐々木 富士子さん

今年の春くらいから戸別訪問を始めました。訪問させて頂いているのは以前に「健康相談会」や「足つぼマッサージ」に参加して頂いた方々のところ。仮設住宅の玄関は、一人入るともういっぱいくらい狭いです。

「突然お邪魔して申し訳ありません」と玄関先でお声掛けしています。聴診器、血圧計、バイナードを持った者2名が玄関先に立っているのですから皆さん何かの不審な営業かと思われるようで最初から断られる事もあります。私たちの話を聞いて思い出してくれた方々も多く、その中で了解を得た方々には血圧、脈などの測定をさせて頂いています。

待合室キッズコーナーのレイアウトを担当しています。8月は「広島・長崎 原爆投下70年」学習コーナーを設置しています。

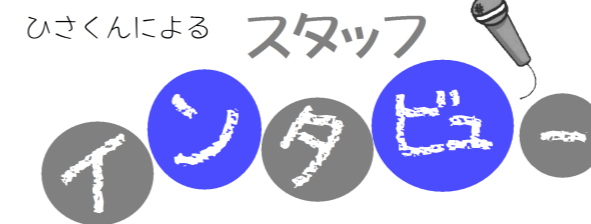


訪問して色々話をお聞きしているのですが、最近では2017年3月での福島県からの避難者支援打ち切りと帰還の方針発表の事がすごく話題になっていて、将来の生活に大変不安を持ち、忘れられていく事への孤立感を抱えている方が大変多いです。どうするか決断しやすくなったと言う方もいます。

仮設住宅に暮らす方々をいつまでも決して忘れず、最後まで付き添う半端じゃない気持ちでこれからもまた訪問していきたいと思えます。



仮設住宅を戸別訪問し、健康チェックを行っています



米沢市で 避難者の方々と交流

看護職員 馬場 令子さん

米沢避難者支援センター「おいで」が主催する「お茶のみしませんか きっさ万世」に月に1度参加しています。たくさんの熱心な地元のボランティアの方々のサポートで毎週水曜日10時~12時に定期的に開催されています。

会は、ボランティアの方や避難の方が持ち寄られた飲み物、惣菜、おやつをいただきながら、避難してきた人同士が、地域も世代もジャンルも超えて、お互いを知り、一緒に憩える場になっています。

年齢・出身を問わず幅広い人たちが集まっておられ、ボランティアの方も含め20人前後です。第三水曜日には山形県看護協会のボランティアの方が参加され、「血圧・体脂肪」測定等で健康をチェック、また、日頃のストレスや疲労の蓄積を除き、体のバランスを整える一助になればとアロマオイルでの「手のマッサージ」を行っておられ、一緒にさせて頂いていただくこともあります。会は、避難されている方にとっては何も気負わずホッとできるところです。

「この会に参加させて貰って本当に良かった」、「ここに来るのが楽しみ」という声を聞いたときは原発事故という先のみえない状況の中で懸命に前を向こうとされていると実感しました。

中には、診療所の甲状腺エコー検査にこられたことのある方も参加されており、甲状腺エコーや放射線障害について質問や相談をつけることもあります。

福島県が、自主避難者への住宅無償提供の打ち切りを決めたこと(6/15)に対して、「放射能に不安を感じて逃げることももう許されないのか」、「まったくひどい話」と皆、怒り心頭でした。これからも、被災・被ばくの現実に向き合い、避難・保養・医療の原則で対応していきます。